



秋津東小だより

令和3年度 5月号
令和3年4月30日
東村山市立秋津東小学校
〒189-0001 東村山市秋津町 4-35-11
TEL.042-391-8191 FAX.042-397-5411
URL <http://higashimurayama.ed.jp/e12-akitsuhighashi/>

「AI」を「IA」に ～ 授業が変わる・教師が変わる

校長 織茂 直樹

新年度が始まって1か月、学校生活のリズムも徐々に整い、校内には子供たちの元気な声が響いています。新型コロナウイルス感染症は、2度目の緊急事態宣言が3月半ばに解除されたのも束の間、わずか1か月で3度目の発令となってしまいました。学校では、感染防止対策をより強化した上で、教育活動を継続していきますが、授業や行事の計画を一部変更する場合があります。ご家庭に影響することについては、たよりやメールなどで適宜お知らせします。また、ご家庭における感染症対策にも改めてご注意いただき、毎朝の検温・健康観察とカードへの記入とともに、ご家族に何らかの症状が出た場合には、登校を控えるなどの対応についても、引き続きご配慮ご協力いただけますようお願いいたします。

さて、4月半ばに「東村山スマートスクール構想に基づくタブレット型端末の無償貸出」についてお知らせを配布しました。市の構想やタブレット端末の学習への活用等はお知らせをご覧ください。学校では、貸出台帳の作成や機器の初期設定が済み次第、順次1人1台のタブレット端末を使い始めます。今後は、家庭への持ち帰りも想定していますが、しばらくは学校の学習で使い、まずは操作に慣れることから始めていきます。

子供たちが使うタブレットでは「AIドリル」も使うことができます。AI（人工知能）がドリルの解答を分析し、一人一人の習熟度に合わせて適切な課題を提示してくれるので、効果的に自学自習を進めることができます。でも、このような「AIがちょうどよい問題を選んでくれて、子供はAIが選んでくれた問題を解いていく」というスタイルは、言ってみればAIが主導する学習です。また、子供たちがタブレットを使うときには、検索機能を多用することが予想されます。この検索にもAIが活用されていますから、検索結果をその

まま使うだけでは、これもまたAI主導の学習になってしまいます。新学習指導要領には「主体的・対話的で深い学び」というキーワードが示されていますが、このようなAI主導の学習は、それが自主的な取組であったとしても、主体的であるとは限りません。これからの学校が目指す「主体的な学び」というのは、自分が何をどのように学ぶのか、自分で選択し決定し、問題解決をすることです。用意された問題の、用意された答えを探すのではなく、自分で答えをつくることです。これからは、答えそのものを教えてもらうためではなく、自分で答えをつくるための「知能増幅装置＝IA（Intelligence Amplifier）」としてAIを活用すべきだという教育学者の論考があるのですが、私もそう思います。

そうすると、授業の形や教師の役割も変わってきます。今までの授業は、教師が同じ内容を同じ方法・同じペースで学ばせ定着させる記憶・再生型が中心でした。しかし、1人1台のタブレットには、教師以上の情報や知識が詰まっており、それを自分ですぐに呼び出すことができます。そうすると、単なる記憶・再生の価値は薄れ、手に入れた情報や知識の活用方法を学ぶ思考・発信型の授業が大切になってきます。そこでの教師の役割は、子供が手に入れた知識や情報を基に、自分の答えをつくり出す「手助け」をすることです。子供が考えを深めるのに有効なのが、対話や交流です。ここでタブレットの通信機能や情報共有の機能が役立ちます。子供の学習状況を見て、適切なタイミングで適切な対話や交流の場を設定し、子供同士で考えを深め答えをつくり出せるようサポートする、そんな役割が教師に求められるようになります。

「1人1台端末」は、家庭でのオンライン学習やAIドリル学習のツールだけではなく、子供の学び方を変えるツールでもあります。